

特集<言語地図>

イスパニア語およびガリシア

・ポルトガル語地域の言語地図

秦 隆 昌

序

イベリア半島の言語地図の先駆をなすものとしては、1923年に最初の分冊が出された A. Griera 編 Atlas lingüístico de Catalunya があるが、これはカタラン語地域を対象としたものである。イスパニア語地域を含む言語地図は、その第 I 巻の出版された順序から云えば、先ず Manuel Alvar 編 Atlas lingüístico y etnográfico de Andalucía (略称 ALEA, 第 I 巻: 1961年, 第 II 巻: 1963年, 第 3 巻: 1964年), 次にスペイン最高学術会議編 Atlas lingüístico de Península Ibérica (略称 ALPI, 第 I 部<<音韻>> 第 I 冊: 1962年) があるが、地図作製の計画が発表されたのは ALPI の方がはるかに以前である。後に述べる事情により ALPI はその計画が決められてから第 I 部第 1 冊が出版されるまでに実に 40 年の歳月を要している。また ALEA の方が 1964 年に第 III 巻を出版して完結したのに対し、ALPI は 1962 年以後今日まで第 2 冊以下が出版されていない。更に、その出版が予告されている別冊の ALPI 解説書も現在の所未刊である。このような事情があるが、ALPI の調査方法、第 1 冊出版までの経緯はかなり詳しくその序文に書かれている。

§ 1. ALPI について

(作業の開始) この地図の作製は、マドリドの歴史研究センターの所長であった R. Menéndez Pidal が総責任者となり、同センターの言語学部門で音声学および方言学を担当していた Tomás Navarro Tomás が実行責任者となって準備作業に着手したのがその始まりである。Tomás Navarro は予備調査を行なった後、1923年の Revista de filología española 誌上 (VOI. X, P. 112) にこの地図作製の予告をしている。

(調査地域) ALPI がカバーする範囲は、その名称からして、イベリア半島内のカタラン語地域、イスパニア語地域、およびガリシア・ポルトガル語地域が主要部分を占めている事は当然であるが、カタラン語地域に属するスペイン領 Baleares 諸島、およびフランス領 Roussillon 県が含まれている。逆にガリア・ロマンス語(アラン方言)地域に属しているスペイン領 Lérida 県 Valle de Arán 郡は調査地域から除外されている。またイベリア・ロマンス語地域内で現在話されているバスク語は、ロマンス語でないために調査の対象とはされていない。序文では明確に規定していないが、ALPI がその調査地域を限定した基準は次のように表現する事が出来よう。即ち、「1492年2月の国土回復戦争終了時以前からイベリア・ロマンス語が使用されていた地域」である。

(調査の進行状況) 調査予定地域は7つの部分に分けられ、ポルトガル人1人を含む若い調査者6人が選ばれ、Tomás Navarro の指揮の下に予備的訓練が行なわれた。本格的な調査は1931年春から始められたが、1936年夏、現代史上の一大事件となった「スペイン市民戦争」勃発のため、かなりの部分の調査が進んだ段階で作業を中断せざるを得なくなった。この時までには調査の終わった地域は次の部分である。

- 1) レオン方言地域：Aurelio M. ni Espinosa (息子) — Lorenzo Rodríguez Castellano ; Espinosa — Aníbal Otero Alvarez の各チーム
- 2) カステイリア方言地域：Tomás Navarro Tomás — Espinosa ; Espinosa — Rodríguez Castellano ; Espinosa — Otero ; Manuel Sanchis Guarner — Rodríguez Castellano の各チーム
- 3) アンダルシア方言地域：Espinosa — Rodríguez Castellano チーム
- 4) アラゴン方言地域：Sanchis Guarner — Rodríguez Castellano チーム

この時かなりの作業が終っていた所は次の2地域である。

- 5) カタラン語地域：Sanchis Guarner — Francisco de B. Moll チーム
- 6) ガリシア語地域：Otero が1人で担当した部分、およびOtero — Espinosa チームが担当した部分がある。

ポルトガル語地域については、Otero とポルトガル人 Armando Nobre de Gusmão のチームが担当し、調査を始めたばかりの所で中断された。

1936年夏までで得られた資料はマドリードの Tomás Navarro の許に集められたが、同年冬マドリードが Franco 軍に包囲された時に、Tomás Navarro によってバレンシアに運ばれる。戦況は当時の政府軍にとって次第に不利となり、ALPI の資料は、ついに国外に亡命せざるを得なくなった Tomás Navarro と運命を共にし、バルセロナからフランスのパリを経て、アメリカ合衆国に移され、彼が教授の職を得たコロンビア大学に長期間保管される事になった。これ以後 ALPI の仕事はしばらく空白状態が続く、第2次大戦も最中の1940年、この大戦には参加していなかったスペインの首都マドリードに最高学術会議が誕生し、ALPI 製作の続行が決議される。そして実行責任者として新しく Rafael de Balbín が選ばれる。やがて大戦が終り、1947年以後調査が再開され、それまで残されていた次の3地域の調査が完了する。

- 1) フランスの Roussillon 県：Sanchis Guarner — B. Moll チームが担当、1952年夏完了
- 2) ポルトガル語地域：リスボンの高等文化研究所の協力を得て、ポルトガル人 Luis F. Lindley Cintra (新しくこの調査に参加) — Otero チームが担当、1954年終了。
- 3) ガリシア語地域：Cintra — Sanchis Guarner チームが担当、1956年夏完了。

これで ALPI の為の調査はすべて終了した訳である。一方コロンビア大学に保管されていた戦前の資料は、1950年 Rodríguez Castellano と Sanchis Guarner の2人が最高学術会議を代表してアメリカに渡り、Tomás Navarro からそれを受取ってスペインに持帰っている。この時 Tomás Navarro は彼等に地図作製や出版に関しても注意を与えている。資料の整理、音声記号の統一、製図等、出版に到るまでの作業は Rafael de Balbín の指揮下に行われた。その結果、1962年第1部〈音韻〉第1冊 (ABEJA — EJE) がようやく出版されるに到った。それ以後今日まですでに10年が経過しているが、第2冊以下

は未刊のままである。昨1971年、私がマドリッドに滞在中、文学部のRafael Lapesa, Zamora Vicenteの両教授にこの事情をお尋ねして見たが、出版の問題であって、資料の整理が遅れているからではないと云うお答えであった。この辺の詳しい事情は未だ良く分からない。ALPIの解説書も未刊なので、今後どう云う内容の分冊が出されるか、全体で何冊になるかと云う事さえ未だ分からないのが実情である。

(調査内容・構成) 調査に使用した質問表は2部に分かれていて、そのⅠは<音韻> <形態>, <統辞>, そのⅡは<語彙>と<民俗>に関するものである。この質問表はTomás Navarroが中心になって作ったもので、言語地図の先駆であるAtlas linguistique de la France (ALF)およびSprach- und Sachatlas Italiens und der Südschweiz (AIS)に負う所が大きく、特に<語彙>の部の各項はこの2つの地図の内容を使っている。第Ⅰ部は411の質問から成り、その中281は語に関するものであり、残り130は簡単な文に関するものである。<音韻>に関する質問においては、調査範囲全域の比較がし易いように、異った言語・方言間で同一語源に由来する語が使われている概念を出来るだけ選ぶように工夫された。例:<空気>(Port. ar, Esp., Cat. aire <AER>, <口>(Port., Esp., Cat. boca <BUCCA>, <(植)あし>(Port. cana, Esp. caña Cat. canya <CANNA>。選ばれた概念の中には、語彙論的な考慮だけからすれば不適当なものもあるが、それを犠牲にしても先に述べた利点の方を重視した。第Ⅱ部は2つに分れ、ⅡG<sup>1)</sup>にまとめられた質問群は417の質問から成り、ⅡE<sup>2)</sup>は833の質問から成っていて、これ等の質問の多くは答が1つとは限らないように作られている。普通ⅡEの質問表が用いられ、全体として約2000語の語彙が採集されるように調査が行なわれた。<語彙>に関する質問では、単に物の名称だけでなく、その形や使用法、更にはその土地に残ることわざ、習慣、云い伝え等についてふれ、<民俗>に関する質問は地勢、気象、天文、植物、動物、家畜の飼育および利用、牧畜、屠殺、人体とその病気、誕生・結婚・死亡を含む家庭生活に関する事柄、伝統的な衣服および食事、家具・台所用品を含む家屋に関する事柄、刈り取り・脱穀等農耕に関する事項、ぶどう樹・ぶどう酒に関する事、面積や液体・穀物の分量を表わす伝統的な度量衡の単位、養蜂、チーズ造り、大工・左官・鍛冶屋・粉ひき・靴屋等古くからある職業に関する事項等にわたっている。このような職業に使われた道具類について調査する時、沢山の写真が撮られ、またスケッチも行なわれたが、これ等の道具類の多くは過去4分の1世紀の間に姿を消した為、集められた資料は非常に貴重なものとなった。農業、牧畜に関する質問では、イベリア半島に最も良く普及したものが選ばれた。逆にある地方に限られた産業に関する事項、各地の特産物等は質問事項から除かれている。

(調査地点の選定基準) 本格的な調査に入る前に予備調査が行なわれ、各地の方言に関する事実、地理的・歴史的事情を考慮して調査地点が選ばれた。この為調査地点の密度は全域において均一ではない。例えばAsturiasのように、その内部の方言的多様性の大きい地域の方が、Castilla中央部のように言語的均質性の強い地域よりも調査地点の目が密になっている。言語的、民俗的に古い伝統の保たれている小村が一般に選ばれ、その数は全体で528である。これは平均すると1,115km<sup>2</sup>に1地点、そして人口67,819に1地点(1950年の人口統計に基く)の割合<sup>3)</sup>になっている。これを言語地域別に見ると、1) ガリシア・ポルトガル語地域—156, 2) イスパニア語地域—276, 3) カタラン語地域—96になる。

(インフォルマンツの選定基準) インフォルマンツに関しては、その土地の住民

の方言を自発的に、しかも全く忠実に表現出来る人である事が選定の基準である。その為に具体的には次の条件が満たされなければならないとALPIの序文は述べている。4)

- 1) その土地で生まれた人、また出来れば両親や配偶者もそうである事が望ましい。
- 2) 殆ど自分の土地以外を旅行せず、また他所には全然住んだ事のない人。
- 3) 文盲、あるいは殆ど教育を受けた事のない人。

その他付随的条件として次の点が考慮された。

- 4) 男性である事 — 農業に関する専門語が質問表において重要な比重を占めているが、イベリア半島では多くの地方で女性は農業労働に従事していないと云う事情がある。
- 5) 比較的年配の人の方が望ましい事は当然であるが、あまり老齢の人は避けるべきである — 肉体的にも精神的にもひどい衰えがある事は、言語表現に支障を来たす恐れがある。特に歯が欠けている事は致命的な障害である。

(調査方法) 調査には殆ど常に2人のインフォーマントに対して2人の転記者のチームが当てられた。最初2人の転記者が共同で2人のインフォーマントに質問し、その土地の方言の基本的特徴を理解し、インフォーマントの信頼を得た後、インフォーマントを1人ずつに分け、転記者も1人ずつに分かれて質問をする。その後、曖昧な答を確かめ直したり、誤りを修正したり、あるいは答の得られなかった事項についてくり返し尋ねる為に、転記者とインフォーマントの組合わせを変えた。また特に無回答の質問をもう一度くり返す場合には、第3の補助的インフォーマントに加わってもらい事もしばしばあった。また古い職業に関する語彙の採集に当っては、その専門職に携わる人に尋ねなければならなかった。

調査において質問者が使用した言語は一般にその地点が属している言語地域の共通語(ガリシア語、ポルトガル語、イスパニア語、カタラン語)を用いたが、可能な範囲でインフォーマントに個々の方言も併用した。質問は間接的に行なわれ、実物の見せられないものは、そのスケッチを見せ、植物・昆虫については標本集、標本箱を用意した。

(音声記号) 音声記号はTomás NavarroがRFE II(1915), PP. 374 376 および著書Manuel de pronunciacon española, New York, 1957, § 31 で定義した記号が基本になっているが、それはALFおよびAISに用いられたものと大体同じで、それに幾つかの補助記号がつけ加えられている。またφ(無声両唇摩擦音)、ŋ(軟口蓋鼻音)、χ(無声軟口蓋摩擦音)、θ(無声歯間摩擦音)をIPAの記号から採用している点が異っている。これ等の記号はそれぞれ従来の言語地図のF, ñ, h̃, sに相当する。ñ, h̃, sの記号は補助記号をこれに併用した場合、まぎらわしくなる欠点があるが、IPAの記号の使用はこれを避けると云う利点がある。

## § 2. ALEAについて

ALPIがスベイ・ポルトガルの国家的事業として学界中枢の指揮下に多数の人員を配して作られたのに対し、ALEAは当時地方のGranada大学にあって精力的な研究を続けていたManuel Alvar 正教授(現在はマドリド大学文学部正教授)と、その協力者Antonio Llorente およびGregorio Salvador の殆ど個人的な努力に負う所が大きい。9年間

かけて調査と資料の整理を行ない、1961年から1964年にかけて3巻に分けて出版し、完結している。

(調査地域と分担の仕方) ALPIの調査範囲が1492年2月以前のイベリア・ロマンス語地域と云う言語的基準で区切られたのに対し、ALEAのそれは「Huelva, Sevilla, Cádiz, Córdoba, Málaga, Jaén, Granada および Almería の8県より成る Andalucía 地方」と云う風に、現在の行政区分に準じた調査範囲の限定をしている。調査地点は全体で230あり、その密度はALPIの4倍弱になっている。その県別の数は次の通りである。( ( )内はALPIの調査地点の数を示す) Huelva : 24(7), Sevilla : 31(9), Cádiz : 17(4), Córdoba : 25(8), Málaga : 26(8), Jaén : 31(9), Granada : 46(9), Almería : 30(8)。調査者の分担はALPIと異り、チームによる場合より単独で行なわれた場合の方が多い。即ち, Alvar — 78, Llorente — 35, Salvador — 96; Alvar—Salvador チーム — 8, Alvar Llorente チーム — 7, Alvar—Llorente—Salvador チーム — 4, Llorente — Salvador チーム — 2である。担当地域の配分は第3図にくわしく出ている。全体に3人の調査者が平均して当るように、各県共最低2人以上の者が分担するように配置されている。

(調査内容・構成) ALEA は3巻共すべて切離された紙から出来ており、地図、スケッチ、その他の形による回答結果が820葉の紙に整理されている。全体の配列は民俗学的基準による内容別になっている。第I巻A)項は調査者、調査地点について説明する6種類の地図から成り、それに続くB)からL)までの6項は農耕に関係のある土地の事、使役獣、ぶどう樹とぶどう酒製造、リーフ栽培、製粉と製パン、炭焼、コルク製造等の内容を含み、281種類の図から成っている。第II巻は1)から6)までの番号により分類される6つの大項目で先ず分けられ、それぞれの項目が更にa), b), c)等の記号で小項目に細分されている。内容は草・花・灌木・木・林等植物に関する事、獣類、昆虫類・爬虫類、鳥類・両棲類等の動物に関する事、狩猟、牧畜、牛乳・チーズの製造、屠殺、家畜、養蜂等に関する事項であり、全体で351種類の図から出来ている。第III巻はA)からN)までの14項に分類され、その中A)からH)までは住居とその構造、寝室とその家具、暖炉、台所、容器、食事に関する事、家事等の内容を含み、167種類の図から出来ている。I)とJ)はスケッチと家屋の図面で、全体で15枚である。K)はAndalucía地方の食事に関する質問の答(地図でなく、言葉による説明)をまとめたもので、例えばある調査地点では朝食は主としてパンとコーヒーであると云った内容のものである。全体で11枚ある。L)は地図上に整理出来なかった容器の名称一覧で、全体で2枚である。最後にM), N)は写真集とその索引で、写真集は61枚の紙に印刷され、628種類の写真が収められている。配列は風景、住居、小屋、炊事場、井戸等内容別に先ず分類した上で、それぞれの内容毎に調査地点別に並べられている。

以上のように内容別に分けられた各項の中に、必要に応じて、言語に関する地図、民俗に関する地図・スケッチ、両者を合わせた内容の地図・スケッチ等がその都度出て来るように並べられている。この配列の仕方はALPIとは大いに異なる点である。例えば第I巻D)項<鋤>(ARADO)の136図は“ARADO”と云う見出しで、<鋤>を意味する語が各調査地点でどのように表現されるかを音声記号で表記した地図であるが、これは「言語学的内容」のものである。それに続く137図は各調査地点で実際どんな種類の<鋤>が用いられているかを示すもので、「民俗学的内容」のものである。この地図の見出しは<鋤の種

類>( TIPOS DE ARADO )となっており、地図の右上に<鋤>の種類を表わす4種の記号(●, ○, ◻, ▲)が記されていて、それぞれ言葉で説明されている。地図上にはそれぞれの調査地点にこの記号のどれか一つが記されている。この種の地図の記号の説明に当って言葉では不十分な場合、スケッチで説明にかえている事もある。(例:第34図<手くわ>“ESCARDILLO”) もう一つ例を見よう。<蜜蜂>( ABEJA )と云う見出しの地図はALPIにもALEAにもあるが、ALPIでは第1部<音韻>の第6図に出て来る(この部はABC順に配列されている)。これに対しALEAでは第Ⅱ巻第6項<養蜂>( Apicultura )の第624図に配置されている。

( 音声記号 ) 音声記号は大ざっぱに云ってALPIの体系に似ていると云えよう。φ, χ, η, θをIPAより採用している点も同じである。唯、調査範囲がALPIに比べて狭いためか、その記号の種類はALPIより少く、簡単になっている。

地図上に表記する仕方から見ると、1) 地点毎にすべて音声表記をする場合、2) 語句単位で○, ●, △, ▲等の記号で代表させて、地図上にはこれ等の記号のみを表示する場合、3) 直接的音声表記と間接的記号表記を併用している場合の3種類がある。「日本語地図」が採用しているのはこの中の2)の方法である。

( 調査地点 ) 調査地点にはあらゆる種類のものが選ばれ、各県共自治体総数の25%以上が含まれている。その中には県庁所在地も入っていて、その選定基準は大都市を含まなかったALPIのそれとは著しく異っている。県庁所在地の場合には出身地区、社会階層、教養の程度の異なる5人のインフォーマントを選んで調査している。なおALPIで調査地点になった所は、ALEAでは重複をさけるためか除かれている。

### § 3. 結 び

以上2つの地図集の内容と調査方法を中心に見て来たが、ALPIについては第2冊以下と別冊解説書が未刊のため、ALEAについては既刊ではあるが、個人的な理由で主要参考文献の入手が遅れたため不十分な報告になった事を遺憾に思っている。

所で、Tomás NavarroがRFE X ( p. 112 )で述べているように、ALPIの計画を進めるに当ってはALFの方法が大いに参考になっている。この先駆的な言語地図の価値を十分に理解し、その難点をよく検討した上でALPI製作の計画が立案されている。出版は内乱のためにずい分遅れたけれども、当初の予定通り行けば恐らく1940年代に完成したはずである。ALFを1代目とすれば、これは2代目の言語地図と云う事が出来よう。多くの人員を配し、国際的協力の下にポルトガル、スペイン、アンドラ、フランスの4箇国にまたがる広大な範囲の調査を行なってその膨大な資料を集めた事は、他のロマンス諸国の言語地図に見られない特徴である。ALEAはALPIの計画とは別個に、3人の研究者が協力して小さな規模で作られたものであるが、ALPIの製作作業が未だ進行中であつた時に調査が行なわれたため、この2つの仕事が出来ただけ重複しないような配慮がなされた事がうかゞえる。

ALPIの計画が発表される以前からスペインではR. Menéndez Pidalを中心に言語地理学的研究が進められていた。彼の論文El dialecto español ( 1906 )、著書Orígenes del español ( 1926 )等に出ている重要な論点は、言語地理学的知識がなければ論じられない内容のものである事を見れば、スペインの公の機関が言語地図作製に着手する以前に、個人的なレベルで、言語史上重要な地点の言語地理学的調査が進んでいた事が十分理解出来る。

最後に、入手が遅れた為に参照出来なかったが ALPI, ALEA の両言語地図を理解する上で重要と思われる参考文献をあげておこう。

ALPI :

- 1) Cintra, L. F. Lindley : Enquêtes au Portugal pour l'Atlas linguistique de la Péninsule Ibérique, Orbis, Louvain, 1954, III, pp.417 - 418
- 2) Rodríguez Castellano, L. : El atlas lingüístico de la Península Ibérica, Archivum, Oviedo, 1952, II, pp. 288-296
- 3) Sanchis Guarner, M. : La cartografía lingüística en la actualidad y el atlas de la Península Ibérica, C. S. I. C., Monografías de Ciencia Moderna, 43, Madrid, 1953
- 4) - - - - : La cartografía lingüística catalana, VII Congreso Internacional de Lingüística Románica, Actas y Memorias, II, Barcelona, 1955, pp.647 - 654
- 5) Tomás Navarro : The Linguistic Atlas of Spain and the Spanish of America, Bulletin of the American Council of Learned Societies, Washington, 1944, pp.68 - 74
- 6) - - - - : Cuestionario lingüístico hispanoamericano, I, Fonética, Morfología, Sintaxis, Buenos Aires, 1943

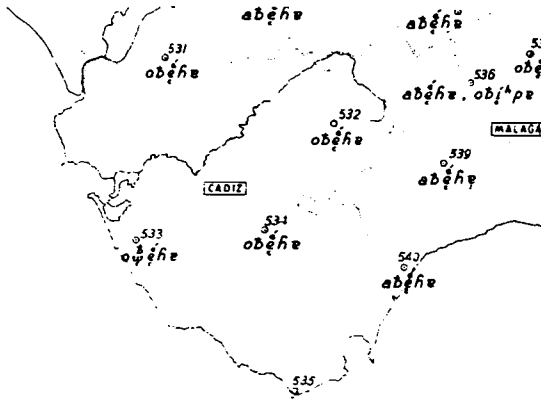
ALEA :

- 1) Alvar, M. : Cuestionario del atlas lingüístico de Andalucía, Publicaciones de la cátedra de Gramática Histórica, Univ. de Granada, 1952
- 2) - - - - : Proyecto de un atlas lingüístico de Andalucía, Orbis, II, 1953, pp.49 - 60
- 3) - - - - : Las encuestas del atlas lingüístico de Andalucía, PALA, I, núm.1, 1955 (y en la RDTP, XI, 1955, pp.231 - 274 )
- 4) - - - - : Cien encuestas del atlas lingüístico de Andalucía, Orbis, V, 1956, pp.387 - 390
- 5) - - - - : El atlas lingüístico de Andalucía, PALA, I, núm. 4, 1959
- 6) Llorente, A. : Fonética y fonología andaluzas (en prensa, en la RFE)

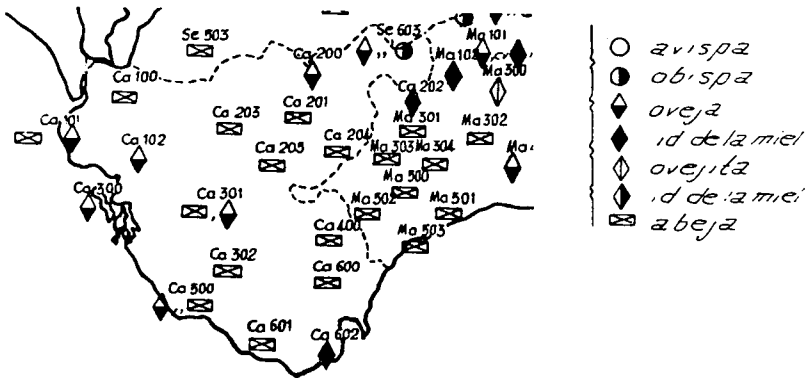
\* \* \* \* \*

[ 地図の例 ]

1) ALPI 第6図 "ABEJA" の一部 ( Cádiz 県 )



2) ALEA 第624図 "ABEJA" の一部 ( Cádiz 県 )



註

- 1) & 2) II Gは第II部Glosario, II Eは第II部Etnografíaを意味すると思われるが、序文にその説明は出ていない。
- 3) 国立国語研究所編「日本言語地図」の調査地点は全体で2400で、人口4万について1地点の割合になっている。
- 4) 「日本言語地図」の調査ではインフォーマントの選定条件を次のように決めている。
  - ① 60才以上の男子 ( 1地点に1人 )。
  - ② 3才から15才までの間に他所での生活経験を持たず、それ以後も他所で3年以上生活した事のない人。
  - ③ 学歴、職歴、階層は問わないが、その土地の平均的な人。
- 5) Origenes 巻末の Algunos principios geográfico-cronológicos ( 第4版では § 100 - 102 ) の項には、イベリア半島全体に関する10種類の音韻境界線地図が出ているが、これは初版から載せられているものである。